



# 4か月間のインターンシップ・留学を 経験させ、学び・考え続ける力を育む

就実大学 経営学部

## 厳しい経験のすべてが 自分の成長につながります

地元企業のメーカーでインターンシップを経験。企画書の締め切りに追われ、つらい思いもりましたが、コンペに貢献でき、自分の成長も実感しました。3年次以降の学びの指針にもなりました。(杉原さん)

## 企業を見る視点が 深く、シャープになりました

4か月いたからこそ、企業の表面的な印象ではなく、事業内容や仕事のやりがいにも目が向くようになり、自分が働くことをイメージしながら就職活動ができるようになりました。(杉原さん)



## 間違いを恐れず積極的に話すことで、 実践的な英語力が向上

留学先では、ディスカッションなどで自分の考えを発信する機会が多かったです。最初はうまく英語を話せるか不安でしたが、4か月間、周囲の学生が積極的に話す姿に刺激を受け、自信を持って話せるようになりました。(金さん)

就実大学経営学部では、2年次後期に4か月にわたるインターンシップ、または海外留学を経験する。社会や世界に目を向けさせることで、自分に足りない力に気づき、3年次以降の学びを充実させ、学び・考え続ける力を育むことがねらいだ。

同学部では2年次から、「リージョナル・ビジネス・マネジメントコース」(以下、リージョナルコース)、「グローバル・ビジネス・マネジメントコース」(以下、グローバルコース)のどちらかに所属する。

2年次後期でのインターンシップや海外留学を実りあるものとするた

## 2年次後期に4か月にわたる インターンシップ・留学を経験



経営学部経営学科4年  
リージョナル・ビジネス・  
マネジメントコース

### 杉原 範泰

すぎはら・のりやす  
岡山県立瀬戸高校卒業。  
メーカーでの勤務を志望。



経営学部経営学科4年  
グローバル・ビジネス・  
マネジメントコース

### 金 紅海

きん・こうかい  
吉林省延吉市第三高級中学  
卒業。日本での就職を志望。

めに、1年次から5〜6人の少人数ゼミで一人ひとりを丁寧指導し、大学での学び方やプレゼンテーション、ディスカッションの基礎などを学ぶ。英語教育にも注力しており、週4日、ネイティブスピーカーの教員によるレベル別の授業を実施している。

2年次は、グループワークを主とした経営学の専門分野の学習も行う。杉原さんはこう振り返る。

「グループワークの振り返りとして、レポートを書く機会が多く、苦労しました。ただ、3年次以降は、自分の考えを論理的にまとめられるようになり、1年次からの積み重ねが生きていることを実感しました」さらに、2年次のグローバル・コースでは、留学先の授業を想定して英語によるプレゼンテーションの方法も学ぶ。

## インターンシップを機に 自分を見つめ直す

リージョナル・コースに進んだ学生は、岡山県内の企業・団体約50社の中から一企業で、インターンシップを経験する。杉原さんは大手学生服メーカーで、一社員として営業活

動に参加した。高校の制服コンペに向けては、企画書作成からプレゼンテーションまで行った。

「自信を持って上司に提出した企画書が何度も突き返され、厳しい指摘を受けて落ち込むこともありました。しかし、別のコンペに勝つた時には、『君の意見も参考になった』と言われ、自分が認められたようで本当にうれしかったです」(杉原さん)

杉原さんは、企画提案の難しさを実感し、市場の動向を踏まえてロジカルに提案する力身につけたいと考え、3年次からはマーケティングに関する科目を多く履修した。

「インターンシップ経験後、周囲の学生が、授業中に積極的に発言したり、グループワークでリーダーシップを発揮したりしていて、明らかに意識が変わっていることに刺激を受けています」(杉原さん)

## 留学を通して 英語力より大切な力に気づく

グローバル・コースに進んだ学生は、世界各国の提携校へ留学し、経営学を学ぶ。TOEICスコアや学業成績などを選考の条件にしており、全員が留学できるわけではない。

「入学前から日本以外のアジア諸国にも留学したいと考えていたのでも、目標点に向けて必死に勉強し、1年間でスコアが200点ほどアップしました」(金さん)

金さんは韓国・公州大学に留学し、現地の学生や留学生とともに国際金融学を学んだ。ここでは、英語力以上にコミュニケーション能力の重要性を痛感したという。

「留学先にはアジア圏だけでなく、世界中から学生が集まっています。多様な価値観の人がいる中で自分の意見を主張するためには、まず相手の考えを認めて、受容することが必要だと実感しました」(金さん)

留学を通して、多様性を認めて組織を動かす手法に関心を持ち、3年次以降は組織論や企業倫理学を重点的に履修。卒業後は、グローバルに展開する日本企業に就職するという目標もできた。

それぞれの学びを深める中で、学生が自らを振り返り、さらなる目標を定めて前進していく。同学部ではインターンシップや留学といった経験を軸としたカリキュラムによって、学生に学び・考え続ける姿が定着している。

## 大学の思い

### 経験から学ばせて 主体性を引き出す



副学長  
経営学部 学部長  
杉山 慎策  
すぎやま・しんさく

本学部の学生の多くは、大学で学びたいことや卒業後の目標を生き生きと語ります。それはインターンシップや留学といった経験がきっかけとなり、自分に足りないことや学ぶべきこと、その先にある卒業後の自分についてしっかりと考えられるからです。

例えば、インターンシップは4か月間だからこそ、本格的に企業の職場に入り込み、正解が1つでない問いとじっくり向き合うことができます。その過程での試行錯誤を通して、学生は卒業までに何をすべきかを自ら考え、主体的に学び始めます。

また、留学した学生は、世界には多様な価値観が存在することを実感し、受容性や複眼的な視点などが身につけていきます。

体験と授業の学びに一貫性を持たせるために、教員が個別にフォローするなど、少人数教育ならではの丁寧なアプローチも本学部の強みです。今後も、岡山の地元企業に貢献する実地有用な人材はもちろん、国際社会で活躍する広い視野を持ったグローバル人材を育成していきます。